

にしゅうしせつぎ

二十四節気では、立春の前日である節分を大晦日、春の始まりである立春を正月と考え、一年の区切りとしています。七十二候は二十四節気の間節分をさらに約五日ずつ、三つに分けた期間のことで、気象の動きや動植物の変化を日本人の感性あふれる短文であらわしています。

【節分】二月三日【立春】二月四日

元々、節分は「季節のふしめ」という意味で、念に四回あります。中でも特に大切な立春の前日の節分に豆まきをします。ヒイラギを玄関につけ、

悪い気を追い払うため、一家そろって「鬼は外、福は内」のかけ声で豆をまきます。家族が一年間安全に過ごせるよう、年の数だけ豆を食べます。

【建国記念の日】二月十一日

『日本書記』にある神武天皇の橿原でのご即位の日で、日本の国の誕生日です



昔は『紀元節』と言いました。大きな徳と理想を持ち神武天皇が日本を建国された時、この地上における日本をどのような国にしたいかを述べられたお言葉があります。「六合を兼ねて都を開き、八紘を掩ひて宇と為むこと、亦可からずや。」これは、八紘一宇とも言われ、意味は「すべての国の民族の個性を生かしつつ、すべての人が一つの家族のように仲良くしましょう!」です。この建国の理念は、神武天皇以降百二十五代今上天皇陛下まで、二六七六年間も生きています。これはとても尊いことなのです。



【雨水】二月十八日 雪が雨に変わり雪どけが始まる頃。とけた雪が田畑をうるおして、眠っていた動物たちが目覚め始めます。農耕の始めを示す。

【二月の七十二候】

四日 東風解凍 はるかぜ こおりをとく

八日 黄鶯睨睨 うぐいすなく

十三日 魚上水 うお こおりをのぼる

十八日 土脉潤起 つちのしょうううるおいおこる

二十三日 霞始翳 かすみ はじめてたなびく

二十八日 草木萌動 そうもく めばえいずる



日本文化「今を感謝して受け入れ、今に集中する」を素直に受け入れれば、がんも治る体験

死の淵から生還した白駒妃登美さんのお話です。

医師から「このがんの状況で助かった人を今まで見たことがない。」と言われ、白駒さんは、自分の生き方を変えます。伝記本を読むのが好きだった白駒さんは、正岡子規の生き方を思い出します。〈不治の病の病床に就いた正岡子規が見つけた武士道〉

生への執着もなく、諦めもなく、生かされている今という一瞬一瞬を、平気で生きること この正岡子規の生き方、つまり、余命幾ばくもないと宣告されたことに対して、「現実を素直に受け入れて、毎日一杯生きること」に尽きる「これしかないと思われたのです。白駒さんは、次のように語っています。

【「私は日本人として生まれたのに、なんて日本人らしからぬ、アメリカ人がぶれた人生を生きさせてきたんだろう。今から私は日本人として生きよう」と

心に決めたら、不思議なことが起きました。毎晩子どもの寝顔を見ながら、不安で不安で泣いていたけど、「日本人らしく生きよう」と思ったら、夜眠れるようになり、それまでの不安が雪のように溶けてなくなりました。人間が抱える悩みというもの、そのほとんどが過去を後悔しているか、未来を不安に思っているのか、どちらかではないでしょうか。でも、過去の日本人がしてきたように、過去や未来を手放し、「今、ここ」に集中したら、不安から開放され、悩みが消え、さらに不思議なことが起こりました。抗がん剤治療に入るための精密検査を受けたら、なんと幾つもあったがん細胞がきれいに消えてなくなっていたのです。

日本人らしい生き方に気が付いて、今日から日本人として人生をやり直そうと思ったときに、たぶん自分の中の遺伝子があっても喜んでくれ、その結果、遺伝子がオンになって、自分に元々宿っていたけれども、眠っていた生き方が急に発揮されるようになったんじゃないかと思えます。

日本人の遺伝子は、おそらくあの『古事記』の時代から組み込まれているんです。だから、日本人としての本来の生き方を心がけたら、きっと私たちの遺伝子はオンになって、皆さんの人生にもすごい奇跡が次々と起きるようになるんじゃないかなと思います。】

日々の生活の中で、たとえ会えずとも本や人を介し素晴らしい人びとの智慧や愛に満ちた世界と触れ合うことで人生が開かれていくのかもしれないね。

(北原 明美)

和歌コーナー



なのはなってなあに つぼみがあるよきいろいろいね
 はじめてみたよ すきになったよ
 なのはなに ろうばいのはな すいせんも
 みんなきいろい わたしがみつけたよ

三歳 Y・M

☆はるをつげる花はきいろい花が多いですね。
 どうしてなのかな？みいちちゃん、よくみつけたね。

てつぺい くに 夕日 平和

いろんなじがあるんだね しゅうじのこと

年中 Y・T



☆初めて書いた「てつぺい」くんの文字、力強く
 いきいきとしていて、すばらしいですね。

おしようがつ たのしかったよ すしぱずる

いとこといっしょに あそんだんだよ

年中 K・S

☆おもしろそうなパズルをしたのですね。おしよ
 うがっは、いともみんなあつまって楽しいね。

お正月 おばあちゃんちに 行ったんだ

手作りおせちを みんなで食べた

コンクール はじめて出たよ すごかった

どりよくしように はじめてもらった



お正月 がくどう行って こままわし

大会あるから もうとつくん

お正月 デイズニー行って うれしかった

パレード見たり いろいろしたよ

小学二年 J・R

☆瑠花ちゃんは、和歌づくりが大好きですね。感
 じたことをすらすらと言葉にでき、すばらしい！

お正月 おとしだまをおとうさんにもらったよ

うれしかった またもらいたい

小学三年 Y・T

☆おとうさんからいただいたおとしだま、うれし
 かったでしょうね。

お正月 おもちを食べて おいしいな

また食べたいな おいしいおもち

小学四年 Y・H



☆お正月に家族みんなで食べるおもちは、とっても
 おいしいですね。みんなの笑顔が浮かんできます。

平成二十九年歌会始 御題「野」

御製

※かんたん 御製
 邯鄲の鳴く音聞かむと那須の野に集ひし夜

なつかしみ思ふ

※鈴虫に似て淡黄緑色の昆虫
 土筆摘み野蒜を引きてさながらに野にある

ごとくここに住み来し

今月の論語

子、曰わく、

「君子は周して比せず、

小人は比して周せず。」

孔子先生がおっしゃった。

「君子は誰とでも公平につき合って、かたよ
 つたつき合い方をしない。小人は反対に、
 一部の人とばかりつき合って、広く人とつ
 き合うことをしない。」

君子は誰とでも公平につき合うことができま
 す。好きな人とだけつき合うことはしません。

でも、小人は自分の気に入った人とばかり仲
 良くします。優しく広い心を持って、多くの人
 とお友だちにならなりたいですね。

親子で楽しむ こども論語塾（明治書院）より

次回は 三月二十五日(土)です。

西宮市立中央公民館 601室

西宮市高松町48(プレラにしのみや内)

※中央公民館・プレラホールの入り口の

エレベーターで六階へ上がって下さいね。

(文責・藤波)